



複合プラリサイクル及び フィラー向け相溶化材

開発ステージ

構想・探索

開発中

開発完了

製品化完了

キーワード

マテリアル
リサイクル

フィラー分散

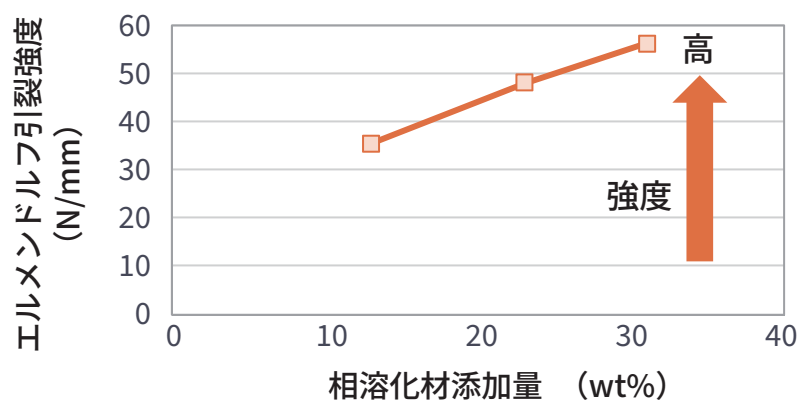
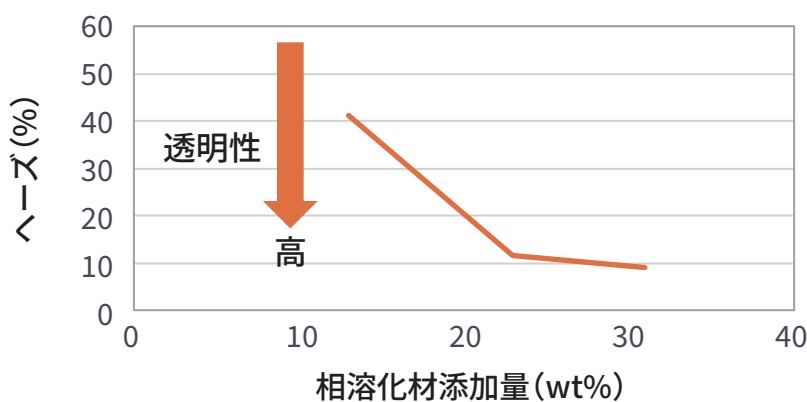
用途

容器包装 / その他探索中

背景

- ポリエチレン+ポリアミド等の混合プラスチックに添加することで、成形時の安定性が向上し、物性の低下が抑制され、リサイクル性の向上につながる
- フィラー分散性を向上させ、物性低下の抑制やフィラー添加量の増加に寄与

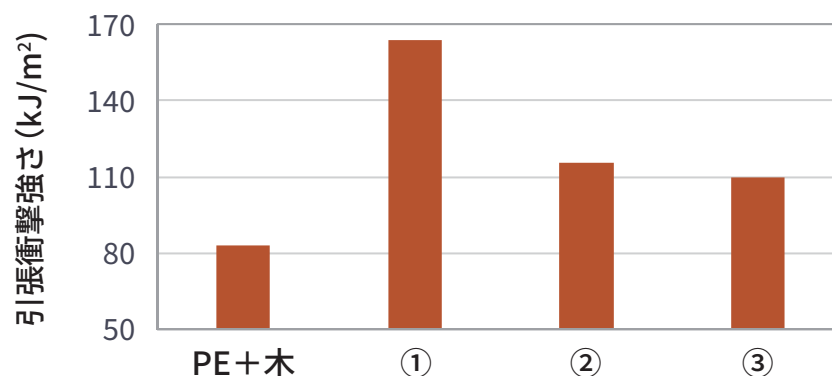
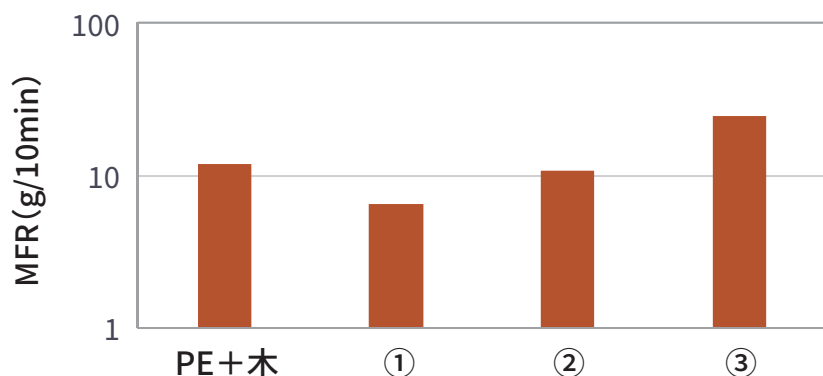
PE/Ny 混合プラスチックの透明性、引裂強度



※PE(70%)+Ny(30%)の混合プラスチックに対し相溶化材を添加、測定サンプル厚み：70μm(インフレ成形)

相溶化材添加により透明性・裂けにくさが向上

木粉 20% 混合時の流動性(MFR)、引張衝撃強さ



①相溶化材(極性基変性タイプ)20% 添加 ②相溶化材(極性基共重合タイプ)20% 添加 ③相溶化材(極性基共重合・高 MFR タイプ)20% 添加

相溶化材のタイプにより流動性を調整可能、耐衝撃性も向上

お問い合わせ |  日本ポリエチレン株式会社

免責事項 本資料に記載された試験結果、技術情報、推奨事項等は、弊社が蓄積した経験および実験室データに基づいて作成したもので、異なった条件下で使用される製品にそのまま適用できるとは限りません。従いまして、お客様の製品、使用条件にそのまま適用できることを保証するものではなく、それらの活用に関してはお客様で責任を持って判断する必要があります。弊社はいかなる場合においても、本製品を単独または他の製品と組み合わせて使用した場合の、製品への適合性及び本書に記載された用途における市場性と安全性については保証しません。